

組織・グループ名	横浜「当事者研究」会
活動区分 ※いずれか1つに○をつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般助成 〔<u>当事者活動支援</u>・福祉の学び推進・地域福祉ニーズ(課題)対応・地域福祉コミュニティ構築〕</li> <li>● 協働事業助成 〔1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動 2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動〕</li> </ul>
助成事業名	「ピアサポーターカレッジ」開催と当事者連携の地域展開事業

助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。

《事業目的》

精神障害を抱えてくらす人が、障害福祉・医療・企業・生活の現場において、自らの当事者性を活かしながら、仲間を支援する“ピアサポーター”は、精神障害当事者にとり社会生活をおくるうえに欠かせない存在であり、地域における“ピアサポーター”の必要性は高まっています。

既に個々にピアサポート活動される方も多い中、活動することにより自身の体調を崩してゆくというのも現実です。

当事者同士の連携を図り、孤立を防ぎ、要支援者への支援の向上と社会参加を促すことを目的とします。

《概要》

テーマ『ピアサポーターカレッジ』～やってる人もやってない人も～

平成 20 年より実施してきた自助プログラム「当事者研究」の経験を活かし、当事者同士共通したものを軸にお互いが支え合い、いわゆる治療がめざすもの（生活者の仲間になること）を学ぶ場として地域に開いて実施。

全 5 回 対象者：当事者及び地域市民。

第 1 回 オリエンテーション。ピアサポート概論。

第 2 回 ピアサポートの基本行動。 現役ピア活動員を迎えて、活動の様子を聞き質疑応答。

(ゲストピア活動員：北海道浦河べてるの家 伊藤 知之氏、コミュニティーハウスべてぶくろ 鈴木 隆夫氏)

第 3 回 実習。(医療法人宙麦会ひだクリニックデイケア)

第 4 回 ワークショップ「地域でのピアサポーターの役割について」「当事者研究とは」

(特別講師 北海道医療大学教授 向谷地 生良氏)

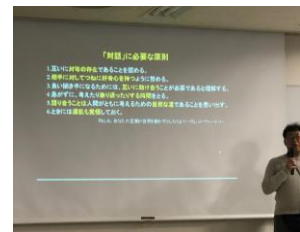
第 5 回 薬について。 振り返りミーティング。皆勤賞・参加賞授与式。

\* (第 5 回は、コロナウイルスの影響で中止になりました。)

講師：MC メディアン代表 向谷地 宣明氏 北海道医療大学教授 向谷地 生良氏

協力：北海道浦河べてるの家・医療法人宙麦会ひだクリニック

・コミュニティーハウスべてぶくろ



《参加者皆さんの声》

\*ピアサポート概論では、「ピアサポートについて初めてちゃんと学べました。」

\*現役ピア活動員の話では、「経験談を聞いて今後のピア活動に大きな力となった」

\*実習では、「普段中々入ることのできないデイケアでの見学・体験はとてもよかった」

\*ワークショップでは、「グループに分かれてのミーティングで、支え合うことについて身近な仲間と具体的に話し合えた」